



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい
vol. 110

「馬米丸(マレー丸)の碑」

昭和45(1970)年

太平洋戦争末期の昭和20年1月、門司港を出港した陸軍輸送船「馬米丸」は、兵員と船員合わせて乗員2,112人を乗せて南方を目指し航海していました。そして、鹿児島県坊津町の久志湾沖にさしかかったとき、敵の潜水艦から発せられた魚雷を受け沈没しました。1,612名の尊い命が犠牲になりました。この慰霊碑は鎮魂の思いを込め、昭和45年1月に建立されましたが、今でもお供えの花が絶えることはありません。

ある時、慰霊碑を訪ねると、沈みゆく輸送船を目撃したという老婦人に出会いました。「見えたのですよ、ここから」。夕陽に照らされながら語る婦人の横顔が今も忘れられません。本当のあの頃を知っている人々がいなくなる…そんな淋しさを感じながら碑の前を去りました。中村晋也美術館では「戦後80年目の鎮魂展」を開催中です。



(高さ)60cm × (幅)70cm × (奥行)8cm
鹿児島県南さつま市坊津町久志

特別協力 公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



まちかど

キラリ

中村 大索さん・
健太郎さん
(鈴鹿市)



6月22日開催の市制施行20周年記念「NHKのど自慢」に出場され、「今週のチャンピオン」に輝く。

兄・大索さん(左):幼稚園教諭。通勤途中の車内で歌を練習。勤務先では、園児たちに歌う楽しさを伝える。

弟・健太郎さん(右):市役所勤務。大学時代に合唱サークルに所属し、現在はお風呂をステージに歌を熱唱。

歌に想いを込めて、兄弟で奏でるハーモニー

「NHKのど自慢」への出場のきっかけは、大索さんが市のホームページで開催を知り、健太郎さんに伝えたこと。曲は健太郎さんが提案し、自身が好きだった歌の歌詞に自分たちの姿を重ね、「今を大切に生きよう」というメッセージを届けたいとの思いからDa-iCE(ダイス)のCITRUS(シトラス)を選曲。「選曲理由を熟考していたら、締切時間ギリギリの応募でした」と苦笑する健太郎さん。選考を通過し、一緒に練習できたのは本番2日前。カラオケで1時間30分、「上と下のどちらでハモろうか?」など二人の会話は尽きなかったと言います。大索さんは、健太郎さんのことを「しっかり者で、普段から頼りになる弟です」と話され、足を引っ張らないようにと試みてきたとのこと。一方、健太郎さんは、「兄には言えてなかったけど、のど自慢で歌うことは内心すごく不安でした」と心の内を明かします。

前日の予選会は、200組という出場者の

数に圧倒されましたが通過。「特に本番では、歌詞を大切に気持ちを込めて歌い上げたいと臨みました」と大索さん。健太郎さんは、「出場者の皆さんが温かい雰囲気をつくってくれ、みんなで一体となって歌えました」と話します。迎えたチャンピオン発表の瞬間、自分たちの番号「10番」のコール。「全く同じタイミングで顔を見合わせ、同じリアクションをしていたね」とはにかみながら話してくれました。熱唱した歌の歌詞「酸いも甘いも捨て、平凡に埋もれてもここにある幸福は何にも代え難い」を自分たちに重ねたように、「日々のささやかな幸せを大切にしたい」という想いを伝えてくれました。亀山市のチャンピオンとして「NHKのど自慢チャンピオン大会」への出場が期待されます。

